



## 2025年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年9月11日

上場会社名 株式会社トップカルチャー 上場取引所 東  
 コード番号 7640 URL <https://www.topculture.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 清水 大輔  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長兼管理本部長 (氏名) 吉田 勝一 TEL 025-232-0008  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年10月期第3四半期の連結業績(2024年11月1日~2025年7月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年10月期第3四半期	13,250	△5.6	△221	—	△284	—	△407	—
2024年10月期第3四半期	14,041	△3.8	△301	—	△351	—	△385	—

(注) 包括利益 2025年10月期第3四半期 △400百万円(—％) 2024年10月期第3四半期 △384百万円(—％)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年10月期第3四半期	△26.12	—
2024年10月期第3四半期	△24.69	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2025年10月期第3四半期	14,482	1,091	7.3	△69.16
2024年10月期	15,780	1,617	10.0	△36.98

(参考) 自己資本 2025年10月期第3四半期 1,051百万円 2024年10月期 1,585百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年10月期	—	0.00	—	—	—
2025年10月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年10月期の連結業績予想(2024年11月1日~2025年10月31日)

通期の業績予想につきましては、現在精査中であり、未定とさせていただきます。今後の業績動向を見極めたうえで、見通しが判明した場合には、速やかに公表させていただきます。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年10月期3Q	16,214,400株	2024年10月期	16,214,400株
② 期末自己株式数	2025年10月期3Q	603,480株	2024年10月期	603,480株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年10月期3Q	15,610,920株	2024年10月期3Q	15,610,920株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期期末	第2四半期期末	第3四半期期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年10月期	—	4,000.00	—		
2025年10月期		3,967.12			
2025年10月期 (予想)				4,032.88	8,000.00

(B種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期期末	第2四半期期末	第3四半期期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年10月期	—	500.00	—		
2025年10月期		495.89			
2025年10月期 (予想)				504.11	1,000.00

(注) 1株当たり配当金は、円単位未満小数第3位まで計算しその小数第3位を四捨五入して表示しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更等)	9
(重要な後発事象)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
4. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、物価上昇の影響から、企業の雇用・所得環境の改善傾向が広がりましたが、実質賃金の上昇が伴わず、消費者マインドに弱さが見られました。また、業種や業態の垣根を越えた販売競争の激化や、人件費や原材料価格の上昇、加えて、為替相場の急激な変動や不安定な海外情勢・政策動向の影響から、依然として先行き不透明な状況が続いております。個人消費も、物価高騰が家計の負担となる中、コスパを求める消費と、支出を惜しまない積極的な消費と、慎重に消費対象を選ぶ傾向が強まっています。

このような状況のもと、中期経営計画(2024/10月期～2026/10月期)“持続可能な書店創り”の方針のもと、読書という“人”にとってかけがえのない文化を継承するべく、書籍を中心とした既存店舗の売場改装や商品選定、新規企画・事業の導入等に取り組み、3ヵ年計画の折り返しがスタートいたしました。

取り組みの中心となります書籍は、出版取次の株式会社トーハンの連携を一層強化し、品揃えの充実を図るとともに、店舗では、オリジナル企画やフェアを多数展開することで、お客様に新たな読書体験を提供、さらに、本の購入を“売る”から“贈る”新たなスタイルの企画にも挑戦し、大型店を中心に好調な成果を収めております。一方で、EC販売においては、2025年7月度の売上が過去最大を記録し、第3四半期累計では前年比304.0%と大幅に上回り、リアルとネットの両輪で売上拡大と読書機会の創出を実現しております。

また、創業当初からの強みである複合書店としての特性を活かし、書籍と親和性の高い業種や商品の融合を積極的に図ることで、蔦屋書店事業とのシナジー効果の最大化を推進いたしました。日常を豊かに、非日常の発見を提供するオリジナリティを追求した取り組みを強化いたしました。6月8日に蔦屋書店 龍ヶ崎店(茨城県)店内に、リアルコスメショップ「NO IN beauty」6号店目をオープン、7月5日に蔦屋書店 前橋吉岡店(群馬県)店内に、ゲーム・トレカ販売事業のふるいちトップブックスとアミューズメントパークをオープンいたしました。さらに、人気通販ショップや話題の食品を全国から取り寄せたPOP UPショップの展開・拡大、新たなファッションアイテムや季節ごとの企画商品等の積極的な導入により、来店機会を創出するとともに、書籍との併売率上昇に取り組むことで、書籍を中心とした“書籍×○○”による成果が奏功し、特撰雑貨文具は既存店前年比105.3%と成長しております。

さらに、売場効率の向上による収益改善を目的として、既存店舗の改装を推進いたしました。取扱事業や商品の構成を見直しし、売場を再構築することで、ご来店いただくお客様に楽しさや発見、感動を感じていただける店舗に生まれ変わらせ、再来店へと繋がる書店創りを進めております。併せて、店舗運営の効率化につきましても継続して取り組んでおり、単なるコスト削減にとどまらず、従業員にとって働きやすい環境の整備を推進しております。これらの取り組みを通じて、中期経営計画に掲げた方針・目標の実現に向け、着実に前進しております。

なお、グループ子会社でありますスポーツ関連事業、訪問看護事業、飲食事業、ゲーム・トレカ販売事業につきましては、売上高が前年を上回り、連結業績に寄与いたしました。グループビジョンであります「MAKE LIFE EVALUATE.」のもと、蔦屋書店事業を軸とした各子会社との連携を強化しております。スポーツ以外の学びを通して子供たちの可能性を応援、地域のお客様へ読書習慣を拡大し、イベント開催を通じて体験や感動を届け、コミュニティを創出、サステナビリティの高まりに伴うリユースの強化にも取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高13,250百万円(前年同期比94.4%)、営業損失221百万円(前年同四半期 営業損失301百万円)、経常損失284百万円(前年同四半期 経常損失351百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失407百万円(前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失385百万円)となりました。

### 売上・利益の増減要因

売上面につきましては、店舗数の減少の影響等により、当社グループの主軸である蔦屋書店事業全体の売上高は11,861百万円(前年同期比92.8%)となりました。

利益面につきましては、徹底したコスト管理を行い販管費の削減に努めました。一方で人件費の上昇、閉店に伴うコスト増加及び出店に伴う先行コストにより、営業損失221百万円(前年同四半期 営業損失301百万円)、経常損失284百万円(前年同四半期 経常損失351百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失407百万円(前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失385百万円)となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高11,861百万円（前年同期比92.8%）、セグメント損失は344百万円（前年同四半期 セグメント損失365百万円）となりました。

主力商品の売上高は、書籍7,567百万円（前年同期比93.4%）、特撰雑貨・文具2,259百万円（前年同期比96.9%）、レンタル378百万円（前年同期比70.0%）、賃貸不動産収入362百万円（前年同期比93.7%）、販売用CD140百万円（前年同期比84.2%）、ゲーム・リサイクル127百万円（前年同期比70.7%）、販売用DVD89百万円（前年同期比59.7%）となりました。

② ゲーム・トレーディングカード事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高373百万円（前年同期比128.5%）、セグメント利益29百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

③ スポーツ関連事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高201百万円（前年同期比111.6%）、セグメント利益18百万円（前年同期比2,364.6%）となりました。

④ 訪問看護事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高153百万円（前年同期比117.8%）、セグメント利益16百万円（前年同四半期75.0%）となりました。

⑤ 飲食事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高883百万円（前年同期比104.9%）、セグメント利益30百万円（前年同期比144.0%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産につきましては、前連結会計年度末比1,298百万円減少し、14,482百万円となりました。これは主に、商品が781百万円減少した結果、流動資産が809百万円減少し、また、建物及び構築物が86百万円、のれんが15百万円、敷金及び保証金が231百万円、それぞれ減少した結果、固定資産が488百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比772百万円減少し、13,390百万円となりました。これは主に、買掛金が379百万円、一年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金が444百万円、リース債務が234百万円、それぞれ減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比526百万円減少し、1,091百万円となりました。剰余金の配当を125百万円実施したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純損失を407百万円計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月12日に公表いたしましたとおり、2025年10月期の通期の業績につきましては、現在精査中であり、未定とさせていただきます。今後の業績動向を見極めたうえで、見通しが判明した場合には、速やかに公表させていただきます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	988,928	952,619
売掛金	404,344	478,893
商品	6,920,010	6,138,638
前払費用	233,728	228,350
未収入金	190,612	133,558
その他	11,577	7,640
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	8,748,797	7,939,297
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,154,457	1,068,285
土地	1,415,040	1,415,040
リース資産(純額)	1,941,896	1,801,212
その他(純額)	64,743	95,105
有形固定資産合計	4,576,138	4,379,644
無形固定資産		
のれん	118,213	102,333
その他	16,323	15,228
無形固定資産合計	134,537	117,562
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,138,293	1,907,097
その他	182,593	138,564
投資その他の資産合計	2,320,887	2,045,662
固定資産合計	7,031,563	6,542,868
資産合計	15,780,360	14,482,166



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,230,455	2,850,574
短期借入金	4,500,000	4,800,000
1年内返済予定の長期借入金	587,887	561,235
リース債務	355,547	357,301
未払法人税等	38,643	27,203
賞与引当金	28,000	10,000
未払金	304,114	222,611
資産除去債務	3,127	751
株主優待引当金	7,500	—
その他	278,847	390,595
流動負債合計	9,334,123	9,220,273
固定負債		
長期借入金	1,607,793	1,189,742
リース債務	2,708,864	2,472,960
資産除去債務	181,437	182,900
長期前受収益	158	433
退職給付に係る負債	29,464	29,035
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期末払金	21,267	18,861
長期預り敷金保証金	216,542	213,405
固定負債合計	4,828,468	4,170,279
負債合計	14,162,591	13,390,553
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	4,115,474	3,989,646
利益剰余金	△2,361,594	△2,769,365
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	1,583,851	1,050,253
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,902	1,278
その他の包括利益累計額合計	1,902	1,278
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	23,765	31,831
純資産合計	1,617,769	1,091,613
負債純資産合計	15,780,360	14,482,166

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年11月1日 至2024年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年11月1日 至2025年7月31日)
売上高	14,041,348	13,250,899
売上原価	9,307,208	8,614,511
売上総利益	4,734,139	4,636,387
販売費及び一般管理費	5,035,602	4,857,777
営業損失(△)	△301,463	△221,390
営業外収益		
受取利息	7,043	4,501
協賛金収入	2,569	11,673
原子力立地給付金	3,578	3,032
その他	18,627	14,633
営業外収益合計	31,819	33,840
営業外費用		
支払利息	81,725	94,626
その他	379	2,146
営業外費用合計	82,105	96,772
経常損失(△)	△351,749	△284,322
特別損失		
固定資産処分損	—	7,052
リース解約損	6,119	75,702
保険解約損	—	4,728
特別損失合計	6,119	87,483
税金等調整前四半期純損失(△)	△357,868	△371,805
法人税、住民税及び事業税	31,321	27,899
法人税等合計	31,321	27,899
四半期純損失(△)	△389,190	△399,705
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,777	8,065
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△385,412	△407,771

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)
四半期純損失(△)	△389,190	△399,705
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,394	△623
その他の包括利益合計	4,394	△623
四半期包括利益	△384,795	△400,328
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△381,018	△408,394
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,777	8,065

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用されますが、該当する事象はなく、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	蔦屋書店 事業	ゲーム・ トレーディング カード事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業	飲食事業			
売上高								
外部顧客に 対する売上高	12,623,021	290,661	155,857	130,248	841,559	14,041,348	—	14,041,348
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	164,456	—	24,663	—	—	189,120	△189,120	—
計	12,787,477	290,661	180,521	130,248	841,559	14,230,468	△189,120	14,041,348
セグメント利益 又は損失 (△)	△365,262	△8,208	776	21,353	21,261	△330,079	28,616	△301,463

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	蔦屋書店 事業	ゲーム・ トレーディング カード事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業	飲食事業			
売上高								
外部顧客に 対する売上高	11,669,836	373,486	170,953	153,433	883,190	13,250,899	—	13,250,899
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	191,827	—	30,563	—	—	222,391	△222,391	—
計	11,861,663	373,486	201,516	153,433	883,190	13,473,290	△222,391	13,250,899
セグメント利益 又は損失 (△)	△344,521	29,863	18,363	16,012	30,617	△249,665	28,275	△221,390

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)
減価償却費	304,236千円	322,017千円
のれんの償却額	15,879千円	15,879千円

## 4. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## 商品別販売状況

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)
蔦屋書店事業	書籍	8,099,365	56.9	7,567,638	56.2
	特撰雑貨・文具	2,332,266	16.4	2,259,029	16.8
	レンタル	540,451	3.8	378,453	2.8
	賃貸不動産収入	387,240	2.7	362,787	2.7
	ゲーム・リサイクル	180,285	1.3	127,417	0.9
	販売用CD	167,146	1.2	140,669	1.0
	販売用DVD	149,511	1.0	89,269	0.7
	その他	766,753	5.4	744,570	5.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	164,456	1.2	191,827	1.4
	計	12,787,477	89.9	11,861,663	88.0
ゲーム・ トレーディング カード事業	外部顧客に対する売上高	290,661	2.0	373,486	2.8
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	290,661	2.0	373,486	2.8
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	155,857	1.1	170,953	1.3
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	24,663	0.2	30,563	0.2
	計	180,521	1.3	201,516	1.5
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	130,248	0.9	153,433	1.1
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	130,248	0.9	153,433	1.1
飲食事業	外部顧客に対する売上高	841,559	5.9	883,190	6.6
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	841,559	5.9	883,190	6.6
合計		14,230,468	100.0	13,473,290	100.0

(注) 1 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

2 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード他であります。